

以森伝心

理事長 柏原康夫筆

第 5 号

2008 年 8 月

朝霧にくゆる里山天然林（京都府綾部市口上林）

特集：インタビュー 「能楽と森」 金剛流宗家 金剛永謹氏

通常総会記念講演 「森ともののけ」 国際日本文化研究センター教授 小松和彦氏

森と木のナルホド講座 第1回 「森林の手入れと CO₂」

モデルフォレスト活動報告 活動にぐぐっと接近 以森伝心リポーターニュース



京都の森を守り育てる運動に参加しませんか

自然に対する感謝と畏れが “感じる”心を育む

ユネスコの世界無形遺産^{※1}候補第1号にリストアップされた能楽。金剛流は能の主演であるシテ方^{※2}を演じる五流派のひとつ。古くは奈良の法隆寺に奉仕した猿楽座^{※3}の坂戸座を源流とし、室町初期には春日興福寺に勤仕する大和猿楽四座のひとつに数えられた由緒ある流派で、現在、五流派のうち唯一、関西に宗家が在住する流派でもある。

京都御所の西隣にある金剛能楽堂にて金剛流宗家・金剛永謹氏に日本の伝統芸能・能が、自然や森をどのように捉えているのかをうかがった。

能ではシテ（主演）が生身の人間を演じるよりも、神や仙人、亡霊、天狗、鬼など、精といえますか、神秘的な存在を演じる演目のほうが多いように思います。山や森、木や水など“自然”に人格を持たせ、それらを演じることでシテはそれらの言葉を代弁しているといえるかもしれません」

シテ方として長年演じ続けてきた金剛永謹氏は、今までを振り返るように少し目を伏せたあと、威儀を正して静かに続けた。

「代弁者たるためには、自然を知りそれらの心を感じ、人ではない存在と心を通わせる必要があります。薪能など屋外で演じていると、それらの声無き声が聞こえてくるような気がします。今では能舞台が屋内にすっぽり入っていますが、昔は、庭園など舞台が野外にあるのが一般的でし

た。四季のうつろいを感じ、風を感じることで、演者は自然と語り、人間ではない神秘的な存在の声を表現していたのかもしれませんが」

身近に山や森があった時代には、人々はそれらが与える恩恵と畏怖を理解していた。親しみと同時に畏れを抱いていることを認識していたからこそ森羅万象すべてのものに人間と同等、もしくはそれ以上に高尚な魂を持っていると考えたのではないかと、金剛氏は指摘する。

「森」羅万象の象徴として、特に松を尊び“十八公”と能の世界では呼んでいます。松という漢字を分解したのですが、特別な尊称をつけることで、人間以上の存在として認識します。これは、神様が松を憑代^{よりしろ}にして降臨するとされているからです」

能舞台正面奥の羽目板^{かがみいた}・鏡板^{ようごう}には松が描かれている。これらの松は“影向の松”といわれる奈良の春日大社のご神木を表していることとされ、その昔、春日大明神が翁の姿でこの松に降臨し、萬歳楽^{まんざいらく}を舞ったと伝わる。870年以上前から続く春日大社の若宮おん祭では、若宮神を遷幸させた行宮^{あんぐう}に参拝するため、猿楽、田楽、舞など多くの芸能集団が行列をなして進み、その途中にあるこのご神木の下で決められた演目を奉納する。

「能の演目で有名なものに〈高砂^{たかさご}〉があります。これは松の

金剛流宗家 **金剛永謹**

1951年、金剛流25代目家元金剛巖の長男として京都市に生れる。4歳で初舞台を踏み、6歳よりシテを演じる。素直な芸風で、豪放、華麗な金剛流の時代を担う。1984年京都市芸術新人賞、1986年京都府文化新人賞受賞、1991年には重要無形文化財（総合指定）に認定される。この間、団長としてアメリカ、イタリア、スペイン、フランス等海外公演多数。1999年9月18日金剛流26世宗家を継承。2005年、京都府文化賞功労賞を受賞。現在、(社)日本能楽会常務理事、金剛会名誉会長、(財)金剛能楽堂財団理事長を務める。京都市立芸術大学非常勤講師。





演目〈紅葉狩〉より。左は女性が鬼に化け、平維茂と争う所。右は前半部分でシテが演じる美しい女性。

化身が老夫婦で現れ、松の長寿と和歌の繁栄を語り、人の世を言祝ぐという内容です。この松の化身の翁が住吉明神であり、やはりここでも松と神を同格視しているのです」

演 目の中には松以外にも滝や山、鳥、花などに、神や鬼、人の情念をなぞらえているものがある。これは、能がそのものズバリを演じるのではなく、象徴的に演じる“幽玄”の芸能だからである。

幽玄という言葉には鬱蒼とした森や山の深淵さや定かでない、奥深いものといったイメージがある。山には人智を超えた何かが住まうとされるのも、そんなイメージによるところが大きいのかもしれない。能の演目〈紅葉狩〉では、山を舞台にし、紅葉狩りをしている美しい高貴な女性が、演目の後半に鬼であることが分かり退治されるという不思議な展開となっている。しかし、能の幽玄は奥深いもの、定かでないものだけを表すわけではない。

「能でいう幽玄は、閑寂、優艶といった美意識を総合的に含めた余情美を表します。音曲の美しさ、姿が美しく静かに舞う姿などすべてが幽玄です。だからたとえ鬼の演目でも、写実に走らず、鬼の印象は残しながら美しく舞うことが求められるのです」

写実を嫌う能では、能楽師が面をかける。生身の顔で演技をすれば、演者の感情が表れて直接的・写実的な演技になりがちだからだ。一見無表情に近い能面をかけることで象徴的に演じられるのだ。

「能は幽玄の美を追求する芸能です。しかし、その奥には日本人の哲学が隠されています。自然を敬愛し、万物に魂を見出し、影の部分である人間の情念の恐ろしさや憐れを説く……。牙を剥き襲ってくる鬼や亡霊にも通じ合う心があり、美しく見せようとする日本人の哲学。理解できないから敬遠したり攻撃したりするのではなく、理解できないなら知る努力をし、尊重し合おうとする思い。礼の心を持って付き合うから、自然の恩恵を受けることができてきたのでしょう」

能のなかには、現代人が忘れてしまった自然を敬う心、ひいては自然への畏敬の念が強く根付いている。自然に人格を与え、それらの言葉を代弁するシテの姿から、自然が持つ心を感じる時間を、大切にしていきたいものである。

- ※ 1 2003年の第32回ユネスコ総会で採択された「無形文化遺産の保護に関する条約」に基づいて登録される予定の、世界的に価値の高い無形の文化財のこと。2009年9月に確定した文化財がリスト化される。
- ※ 2 能楽師のうち、シテ・シテヅレ・子方・地謡・後見などを専門に務める者。また、その家柄。観世・宝生・金春（こんばる）・金剛・喜多の五流がある。
- ※ 3 いかにその役柄に化けるか、似せるかという物真似を主軸とする芸能・猿楽を演じる集団。奈良の大和猿楽（やまとさるがく）、滋賀の近江猿楽、京都北部の丹波猿楽、大阪の摂津猿楽、伊勢の伊勢猿楽、越前の越前猿楽などがあつた。
- ※ 4 萬歳楽は「天下治まり鳳凰が舞う」というめでたい楽。
- ※ 5 仮宮のこと。本来天皇の行幸時あるいは、政変などの理由で御所を失陥しているなどの場合、一時的な宮殿として建設あるいは使用された施設の事を言う。この場合は若宮神が遷幸している場所であるお旅所をさす。

行事紹介

第六回大文字送り火能～蠟燭能～

演目 〈春日龍神 龍神揃〉

日時 平成20年8月16日（土） 午後5時開演

料金 【一般】5,000円 【学生】3,000円

場所 金剛能楽堂

京都の夏の風物詩「五山の送り火」の日に開催される蠟燭能。蠟燭の灯りによるひと味違った幽玄の美が楽しめる。また終演約1時間後には、能楽堂向かいの京都御苑より大文字の送り火も見られる。

今年の演目は「春日龍神 龍神揃」。小書「龍神揃」は金剛流と宝生流にしかなく、龍王を中心に7人の龍神と2人の龍女が壮大な舞を繰り広げる大スペクタクル。京都では約24年ぶりの上演になる。

金剛能楽堂

かつての室町幕府の「花の御所」の近く（現在の京都御所の西向かい）に平成15年に開館。旧金剛能楽堂能舞台をそのまま移築した。21世紀の能楽堂の中に19世紀の舞台が融合している。



森ともののけ

国際日本文化研究センター教授

小松和彦氏

去る5月26日、京都平安会館にて開催された京都モデルフォレスト協会平成20年度通常総会において、国際日本文化研究センター教授・小松和彦氏に、もののけを媒介とした「人と森の関係」についてご講演いただきました。ここでは、講演の要約を紹介いたします。

小松和彦

1947年、東京都生まれ。東京都立大学博士課程修了。現在、国際日本文化研究センター教授。専門は文化人類学、民俗学。「妖怪博士」の異名をもち、鬼、妖怪、異人などを入口に、日本文化の深奥に迫る。著書に「日本妖怪異聞録」（講談社学術文庫）、「妖怪文化入門」（せりか書房）、「妖怪学新考」（洋泉社新書）、「京都魔界案内」（光文社）など多数。



森とはなにか？ もののけとはなにか？

森というのは、漢字で見れば木が三つ重なり、たくさんの木（植物）が集まっていることを指しています。ところが、「もり」には、木偏に土、「杜」とする書き方もあります。この場合、木だけではなくて、それが生えている場所も指します。いわゆる「山」も「杜」に該当します。ヨーロッパと違い、日本には平らなところが少ないので、木が密集しているところといえば、必然的に山になります。だから「森」という言葉と「山」という言葉は、日本社会の歴史のなかでは、ほぼ同じものであろうと考えてお話を進めます。

では、もののけとはどういうものか。もののけというのは、非常に古い言葉で、「もの」と「け」という言葉からできています。「もの」とは、おそらく言葉のなかでもっとも大きなカテゴリです。人間も「もの」だし、人間が作ったものも「もの」だし、考えたものも「もの」だし、神さまも「もの」だし、形あるものでもないものでもみんな「もの」という言葉で表現されます。

「け」というのは、なにか働きをしている、活動していることです。ですからもののけというのは、「もの」が別のものに働きかけをしているときに使います。ただ、プラスで働いているよりも、マイナスで働いているときの方が人々の関心が高いので、悪い意味で使われることが多いようです。例えば、私の魂がある人に災いを及ぼして、相手が病気になったとします。すると、相手は「どうして病気になったんだろう。ああ、もののけのせいだ」と判断し、もののけの正体が私の生霊となるのです。また、ある場所で突然風が吹いたと思ったら切り傷ができていた、「これは何だ!? あやしい!」そう思った人が、現象に「かまいたち」という名をつけます。ただの現象がもののけの一員となるのです。そして、注意を促すために物語が作られ、伝承として残っていくのです。音だったり、匂いだったり、触覚だったり、現象だったりをもののけとするので、姿形がないものも多くあります。

このように昔の人は、自分が持っている知識で説明がつかないような、納得できかねるような現象や姿形のものをもののけとし、私たち研究者は学問として扱うときこれらを「妖怪」と表現します。

山のもののけをめぐる物語

①大蛇

山にいるもののけの代表は大蛇。龍とも呼ばれます。例えば『常陸国風土記』夜刀の神伝承。「箭括^{やつかみ}氏麻多智^{はやすのうじのまたち}が、水田を造っていると山のほうから何かがやってきて田んぼを壊し、人々を殺すので、麻多智はそれと戦って山の上に追い払い、神社を建てた。“これからはおまえを神さまとして祀るから、この神社から下には降りてくるな。そのかわり上はおまえの領地にする”と約束し、夜刀の神を祀った」という話です。「やつ」は「谷」という意味なので、「やつのかみ」は「谷の神」です。『風土記』では「角が生えていて、蛇の体を

している」と語られています。これは私たちがイメージする龍です。山の神、水の神、谷の神のような存在が具体的に形をとると、昔の人は蛇の形になるのだと考えた気がします。



『小栗判官絵巻』(千葉市美術館編『伝説の浮世絵開祖岩佐又兵衛』より)
鞍馬の毘沙門天の申し子として生を受けた小栗判官が、各地を流浪した後、殺されるが、閻魔大王と熊野の湯の力で蘇生する話。絵は、小栗判官が京都の深泥池で笛を吹いたら、その音に誘われて池の主・大蛇が誘われて出てきたシーン。

② 鬼

「山には鬼が棲んでいる」というのは皆さんも子どものとき耳にされたと思います。鬼と蛇は同一視され、よく入れ替わります。顕著な例として、大江山の酒吞童子の生い立ちを紹介したいと思います。「伊吹山の神・伊吹は、もとは出雲国にいた八岐大蛇だった。八岐大蛇が素戔嗚尊に退治され伊吹山に逃げ込み、土地の者から山の神として祀られたのである。その山の神が、夜な夜な男に姿を変えて、麓に住んでいる美しい女のところに通い、男の子が生まれた。その男の子は、生まれながらにして髪の毛が生えて、歯が生えそろう、ものすごい暴れん坊。困った家の者は、比叡山できちんと仏教修行をさせれば良い子になるのでは……と比叡山に預けた。男の子はしばらく真面目に修行を積んでいたが、あるとき仲間のお坊さんを殺して、比叡山を追い出され、いろいろな山を転々としたあげくに大江山に住み着いた」というものです。八岐大蛇(大蛇)が伊吹の山の神になり、その子どもが鬼になっているんですね。大江山の話は鬼になってからの話ですが、それ以前の物語を辿っていくと、日本人の頭の中には山の神と鬼と大蛇が結びついていたことが分かります。



『酒吞童子絵巻』(国際日本文化研究センター蔵)
大江山に住み着いた酒吞童子が、源頼光と四天王らに退治され、首を切り落とされたところ。

③ 虫

その他「天狗」「山姥」などももののけの一種ですが、面白いものに「虫」があります。虫が何を指しているか、具体的にいうには難しいものがあります。日本では、ミミズも虫です。私の体の中にも「瘡の虫」がいるといいます。山の中、体の中……いたるところに虫がいるのです。虫と



いうかたちをとった変なもの、これももののけなんです。この虫が、私の考えるもののけのエッセンスのような感じがしています。私の体から虫が出てきたりする。指先から虫が出てきたりする。こういうものが日本の文化のなかではもののけとして、いろいろな物語を作ってきているのです。大蛇なども、大きい意味での虫かもしれません。

新しいもののけ誕生の可能性

宮崎駿さんは、自分の想像力を使って「森の気(怪)」、鎮守の森の「気」のようなもののけ・トトロを作り、森と人間が共生していた時代の文化を、見事なストーリーと映像で見せてくれました。『もののけ姫』では、森というか山というか、そこにシシ神という神を造形しました。生命を司る神であると同時に、開発していく者を殺そうとするもののけ・ダイダラボッチにもなると設定しています。開発者、都人が正しい者だと考えたら、山の精霊は鬼になります。開発をする時、開発者は、山にあるものを制圧しなければいけないからです。しかし、森を守る側から見ると、開発者のほうが鬼になるということを表現しています。

日本の歴史を振り返ってみますと、山のもののけに、いろいろな名前を与えて物語にして語り伝えてきました。例えば、京都の貴船には鬼伝説がありますし、鞍馬には大蛇伝説や天狗の伝説があります。人々が山を舞台にして語ってきた物語が、その地域の歴史なり、人々の精神なりを表してきたのだと思います。

しかし、現在、山村では人が都会に流出して跡取りがおらず、山が維持できなくなっています。これは、さらに人が減り山が荒れ果てるという最悪のサイクルとなります。今まで人が山の中で、山と付き合うなかで作られてきたもののけや物語は、今後、山で作られることは無くなるかもしれません。人がいなければ、妖怪談は作られることはないのですから。

また、都会の人が山のものを生み出せるか、物語を語れるかということ、それこそ宮崎駿さんのような人でないと難しいでしょう。

ただし、今まで伝わった伝承を基にして、新しい作家——漫画家だったり小説家だったりするかと思います。そういう人たちが、現代文化としてのもののけや物語を作ってくれるだろうと思います。それを見て、今の若い人たちが何を感じるか、何を読み取るのか……。願わくは、山や森の価値を理解し、山に親しみや畏れを抱き、新しいものを生み出す力やさらには山村の活性化につながることを祈っています。

森と木の ナルホド講座

監修：(社)京都モデルフォレスト協会

日本の陸地面積の約66%を占める森林。

日本は世界で有数の森林国です。

データでみると

身近に感じる森林ですが、

私たちは実際、どれくらい森や木のコトを知っているでしょうか？

ここでは、知ってるつもりの森や木に関するナルホドをご紹介します。

第1回：森林の手入れとCO₂

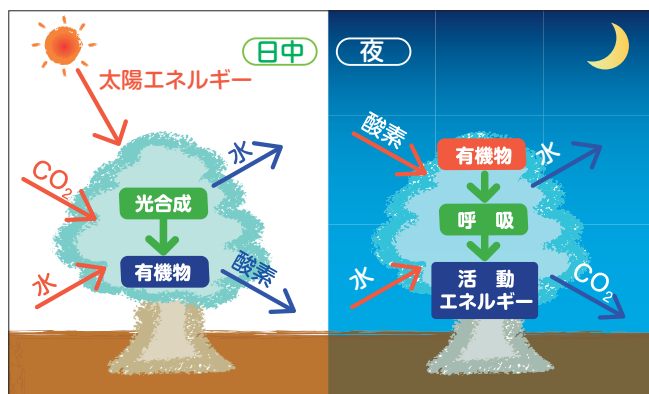
1

木はどうして、CO₂を固定化できるの？

植物が太陽エネルギーを利用し、CO₂と水から有機物と酸素を作り出す……いわゆる**光合成**を行なっていることは皆さんご存知ですね。

その一方で、植物も私たちと同じように酸素を吸ってCO₂を吐く……、いわゆる**呼吸**を行なっていることは、意外なことにあまり知られていません。**光合成**によって作り出された有機物を分解して、活動エネルギーを得るためには酸素が不可欠なのです。

つまり、ものすごく大雑把に言うなら、植物は見かけ上、太陽エネルギーのある日中は**光合成**を、太陽エネルギーが得られない夜は**呼吸**をしているのです。



「え……！？ 日中にCO₂を吸収しても、夜にCO₂を放出しているんだったら、結局はCO₂削減になっていないんじゃないの？」という疑問が浮かびますよね。

しかし、実際には**光合成**で作られる有機物の量（**光合成**で必要になるCO₂量）は、活動エネルギーとして分解される量（**呼吸**で放出するCO₂量）よりも多いので、余剰分が成長量（CO₂固定量）となるのです。

$$\text{成長量 (CO}_2\text{固定量)} = (\text{光合成で必要になるCO}_2\text{量}) - (\text{呼吸で放出するCO}_2\text{量})$$

2

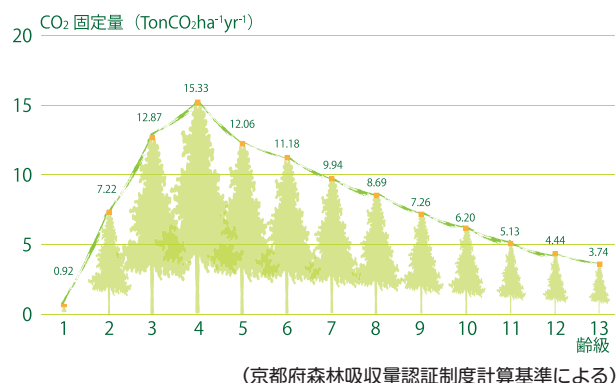
CO₂を固定化する樹木を 間伐するのはどうして？

間伐を行なうのは基本的に、人工林や里山林など人の手の入った森です。間伐とは、樹木の生長に伴って森が混み合うので、樹木の生育を促すためにする抜き切りのことです。間伐を怠ると、木が育たなかったり、林内が暗くなって下草がなくなり土砂が流出したりという弊害が出ます。

ところで樹木のCO₂固定量は、樹齢によって変動します。スギ人工林を例にとると、樹齢15年～20年にピークを迎え、樹齢65年を超えるとCO₂の固定量はかなり少なくなります。

ですから、森林によるCO₂の吸収を促進させるためには、成長段階の樹木を増やし、成長期を超えた樹木は伐採して材木として利用することが有効です。実際、木材で建てられた住宅は、その後、数十年にわたってCO₂を貯蔵することになるので、街の中の「第2の森林」とも呼ばれます。

■スギ人工林の齢級別年間CO₂固定量（1ha当たり）



※ 齢級……林齢を5年ごとにくくったもので、林齢1～5年生を1齢級、6～10年生を2齢級とする

「以森伝心」を盛り上げる、強力な仲間が集まりました！！

京都モデルフォレスト協会の活動を皆さんへ発信していくための強力な仲間が集まりました！ その名は「『以森伝心』リポーター」。リポーター自身が京都モデルフォレスト協会の活動を突撃体験・取材し、誌面でお伝えしていきます。

去る6月2日に、リポーターのキックオフミーティングを開きました。今回リポーターに参加した5名の動機はそれぞれ。クイズや自己紹介を終えて徐々に打ち解けていくと、おもしろいアイデアがたくさん飛び出しました。

初めに、京都の森に対して気になっていることを話し合うと、「森が荒れていること」という意見が最も多く出ました。また、森が使われないことや、その現状を知らない人が多いことを問題視する声も挙がりました。次に、それらを解決するためのアイデアを出し合うと、「まずは多くの人に森を知ってもらうことが大切」という声。また、「木の家に住み森に関心を持った」「林の中を散歩して血圧が下がった」など、



ミーティングの様子

リポーター自身の体験も踏まえて森のよさが見直されました。

話し合いを通してリポーターたちは、ますます京都の森や、森で活動している人たちへの関心が高まったようです。彼らのレポートにご期待！ 今回は上田さんが円卓会議をレポートします。

リポーター紹介

上田 菜由

京都大学農学部森林情報学研究室
/山仕事サークル杉良太郎



奈良盆地で、青垣山（都を囲う青き山々）と呼ばれる山に囲まれて育ちました。大学のサークルで林業を体験してきましたが、リポーターでは他団体と交流し、大学では学べないことを習得したいです。

上野 美紀子

株式会社 ディー・イー・シー
住宅事業部 彩工房



仕事で「木の家」づくりの広報をしており、森で働く皆さんからは大切なことをたくさん教わりました。森の知識が増えるごとに、自然の見え方が変わります。いろんな角度から楽しく学び、伝えていきたいです。

絹川 雅則

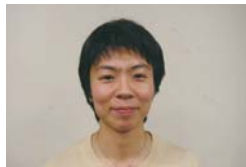
公成建設株式会社/
まちづくりチョビット推進室



仕事柄、災害現場の土石流の現場で激しい傷跡を見ていましたが、京都の森が荒れていることを知り、何とかしたいと思いました。森に関わる人に触れ、森と都市の連携を進める活動に参加したいです。

富山 みゆき

株式会社松栄堂



山岳部時代には森は山頂までの通過ルートでしたが、植物を観察しながら歩くようになると、森の問題も気になりだしました。多くの方へ森の楽しさを伝え、森で活躍されている方と出会えたらうれしいです。

西本 雅則

日本熊森協会京都支部



北山育ちです。ここ数年環境保全活動に関わっており、改めて森の現状を知りました。ボランティアの皆さんにお会いして、環境保全・保護についての考えを聞き、森への共通する想いを汲み取りたいと思います。

森林ボランティア団体等円卓会議 報告（リポーター 上田 菜由）

7月13日(日)13時から、平安会館にて「森林ボランティア団体等円卓会議」が開かれました。参加者は府内の森林ボランティア18団体等の34名。京都モデルフォレスト協会の

取組状況の報告のあと、「森づくりの夢を語ろう」というテーマで意見交換を行ないました。

今回円卓会議に出席し

て、いろいろな団体の方から直に活動の様子や課題、それぞれの森への思いを聞くことができました。共通の課題の一つである人材確保の対策としては、「飲み会で仲良くなるのが一番！」という意見に満場一致でした。また、活動地や活動内容は団体によって違えども、強い思いを持って活動をしているのはどこも同じ。みなさん、活動に誇りを持って楽しく取り組んでいますね。これほどの仲間がいたことが嬉しく、森に関わる活動の素晴らしさを再認識しました。



各グループでの話し合い（中央奥が筆者）

活動報告

第42回林業関係広報コンクール受賞

去る5月28日、東京都の石垣記念ホールで第42回林業関係広報コンクール授賞式が開催されました。

本誌「以森伝心」が広報誌部門最高賞の林野庁長官賞（最優秀賞）を受賞し、井出道雄林野庁長官から賞状と記念品を贈呈されました。



美しい森林づくり全国推進会議



去る6月27日に東京都全国都市会館で開催された「第2回美しい森林づくり全国推進会議」で、当協会の小石原副理事長（京都府副知事）が、福田総理はじめ200人の出席者を前に京都モデルフォレスト運動の取組について発表しました。

京都モデルフォレスト協会支援自動販売機

去る7月4日、府立丹後海と星の見える丘公園に、同公園管理者である特定非営利活動法人地球デザインスクールと近畿コカ・コーラ株式会社の協力により、売上げの一部が当協会の森林づくり基金に寄附される「京都モデルフォレスト協会支援自動販売機」の1号機が設置されました。



森林づくり活動にかかる協定締結

去る3月から7月にかけて、5件の森林の利用保全に関する協定を締結しました。

取組企業など	森林の所在地
株式会社NTTドコモ	宇治市
全労済京都府本部	亀岡市
積水化学工業株式会社	南山城村
三洋電機株式会社	南丹市
株式会社平和堂	和束町

緑の募金（春期）ご協力ありがとうございました。

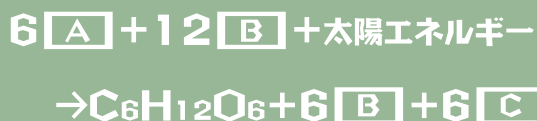
14,963,309円の募金が集まりました。募金は、京都の森づくりのために活用させていただきます。



7月12・13日の音楽コンサートイベント「京都大作戦2008」での募金活動（宇治市）

森と木のちょこっとクイズ

A～Cの□に当てはまる言葉を入れて、光合成の仕組みを表す化学式を完成させてください。



ヒント

植物は「光合成」によって、太陽エネルギーを利用し、CO₂と水から有機物と酸素と水を作り出しています。A～Cに入る元素記号はH₂O、CO₂、O₂のいずれかです。

募集要項

正解者には、抽選で北山杉で作った木製の小物いずれか1点を、抽選で10名様にプレゼントします。

ご希望の方は、「回答」と「住所」「氏名」「どの木製小物を希望するか」を明記し、E-mailかFAX、もしくは郵送で（社）京都モデルフォレスト協会（下記宛先）までご応募ください。



北山杉のお箸



北山杉のペーパーナイフ



北山杉の一輪挿し

発行：社団法人 京都モデルフォレスト協会 **入会案内資料をご希望の方は、ご連絡ください。**

〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入数ノ内町 京都府農林水産部 モデルフォレスト推進課内

TEL&FAX 075-414-1270 E-mail kyomori@kyoto-modelforest.jp

URL <http://www.kyoto-modelforest.jp>

2008年8月発行

企画・編集：自然堂（じねんどう）有限会社



この印刷物は間伐材印刷用紙に大豆油インキで印刷しました。